

(日本語仮訳)
(「独島」「東海」等はママ)

2007年11月20日(11月21日朝刊より解禁)

建設交通部報道資料

担当：国土地理情報院企画政策課

(イ・ハンセ企画政策課長／031-210-2787／kwanse@moct.go.kr)

世界史と共にした韓国の地図の歴史をひと目で・・・ ～東海・独島及び間島の変化を集中調査～

□ 建設交通部国土地理情報院は、国内外の古地図資料の集大成及びデータベース構築のために3月から推進してきた「外国古地図に表現された韓国地図の変遷過程の研究」を完了し、研究結果を発表した。

古地図は、過去の地名と朝鮮半島の形及び形態変化に対する歴史的事実を含んでおり、特に、外国の古地図は、韓国をはじめとする東アジア3国(韓・中・日)の地理情報の変遷過程を含んでおり、東海・独島・間島等の国際的懸案問題を正しく判断できる根拠資料となることから、今回の研究を推進することとなった。

今回の研究には、韓国の地理情報の変遷過程が含まれた外国の古地図400点を収集し、分析した。

※研究対象古地図の現況

国名	計	仏	英	米	伊	蘭	独	ベルギー	スペイン	日本	その他
数量	400	165	108	28	9	23	26	3	14	13	11

□ 今回の研究では、16世紀～19世紀に製作された外国古地図に表現された韓国の形態と境界・地名等を集中分析し、特に東海・間島・鬱陵島・独島・大韓海峡をどのように地図に表記していたかを調査した。

～外国古地図に登場した韓国～

韓国は16世紀中盤から外国古地図に登場し始めて、19世紀まで約400年間、地図に描かれた。初期の200年間は形態的な側面に変化(島→半島)があり、18世紀からは地名・海名・国境線等の具体的な地理情報に変化があった。

16～17世紀の韓国は、半島ではなく、南北に長くのびた島、または丸い形態の島等、実際の姿と違うように歪曲されて描かれ、18世紀にはダンビル(フランス)の朝鮮全図(1735年)をはじめとして韓半島独自の地図が製作され、19世紀には韓国の特定地域(東海、鬱陵島、独島、巨文島等)に対する地図が製作されるに至る。

～東海の名称変遷過程の分析～

東海問題については、時代別傾向を分析したことが特徴であるが、東海は16世紀の地図には「中国海」、「東洋」、「東海」等と表記されており、17世紀後半には「韓国海」と表記され始め、18世紀(1700年～1790年)には「韓国海」表記が主流であったが、18世紀後半(1790年～1830年)から日本海表記が登場し、19世紀(1830年～)以後、日本海表記が急増するようになった。

※様々な名称で表記された東海（４００点の中で）

表記名称	計	東洋	東海	韓国海	韓国湾	東中国海を 韓国海に	東中国海を 東海に	黄海を 韓国海に
数量	194	10	9	73	38	31	31	2

時期	表記された名称	備考
１６世紀	「中国海」、「東洋」、「東海」等と表記	
１７世紀後半	「韓国海」と表記され始める	
１８世紀（１７００年～１７９０年）	「韓国海」表記が主流	
１８世紀後半（１７９０年～１８３０年）	日本海表記が登場	
１９世紀（１８３０年～）以後	日本海表記が急増	

特記すべき事項は、１８世紀後半（１７９０年）から製作された西洋古地図に韓国海の名称と位置がさかさまになり始め、１８３０年～１８６０年代には東中国海に韓国海を表記した地図が製作され、１８４０年～１８９０年代には黄海に韓国海を表記した地図が登場する等、名称の混乱が続きながら、東海の場合に日本海と表記した地図が急増するようになったことである。

～独島と鬱陵島、多様な名称で表記～

一方、独島と鬱陵島は、１７３５年のダンビル（フランス）の朝鮮全図に千山島（独島）・パンリン島（鬱陵島）と表記されて以来、タジュレ（鬱陵島；１７８７年）、アルゴノート（仮想の島；１８１０年代）、リアンコルラク（独島；１８４９年）、鬱陵島・千山島（独島；１８５５年）等、西洋古地図に多様に表記されてきたが、１９世紀初めまでは日本式の名称が使われた事例がなかったことが分かった。

※独島と鬱陵島の多様な名称（４００点の中で）

表記名称	計	千山島（独島）とパンリン島（鬱陵島）	タジュレ（Dagelet, 鬱陵島）	アルゴノート（仮想の島）	タジュレ（鬱陵島）とアルゴノート	タジュレ（鬱陵島）とリアンコル（独島）	松島（鬱陵島）とリアンコル（独島）	鬱陵島と千山島（独島）
数量	83	33	5	6	17	8	11	3

日本式の名称は、１８２７年にロシアのクルセンストンが発刊した「太平洋海図集」で日本式の名前である竹島（独島）と松島（鬱陵島）と表記され、１９世紀以後の西洋古地図に日本式の名称が登場した。

～間島を韓国の領土として表記～

また、外国古地図で、間島は１８世紀初期から１９１０年までも韓国の領土として表示されたが、地図製作者ごとに若干、他の国境（３類型；レジ線、ダンビル線、ボンヌ線）を表わしているが、１００点余りの地図が一様に間島地域を韓国の領土として表記していた。

※間島の境界が表記された地図（４００点の中で）

境界区分	計	レジ線	ダンビル線	ボンヌ線
数量	108	13	63	32

～大韓海峡は厳然たる韓国の固有名称～

大韓海峡は、１７～１８世紀に製作された西洋古地図を分析した結果、大韓海峡（Detroit De Coree, Strasse von Korea, Korea Strasse 等、全９３点）と独立表記されてきたことが分かり、現在国際的にも通用する韓国の固有名称であるのに、１８７４年に日本で製作した朝鮮地図で対馬海峡という名称を使って以降、一部の西方国家及び日本は今まで対馬海峡と表記していることを明らかにしたのも研究成果の一つである。

この他にも、丙寅洋擾（１８６６年）（当館注：フランス艦隊が江華島を占拠した事件）の１ヶ月前にフランス艦隊が測量した漢江地図と巨文島詳細地図等の貴重資料が韓国では初めて公開及び研究されたことも今回の研究の特徴である。

～研究結果を国民に提供～

このような内容が含まれた研究報告書は、政府機関・博物館及び関連機関に配布し、関心がある国民は誰でも見ることができるよう国土地理情報院ホームページ（資料室）に掲示され、研究内容を閲覧できるようになる。

～今回の古地図研究が持つ意義～

国土地理情報院は、今回の「外国古地図に表現された韓国地図の変遷過程の研究」が持つ意義を次のとおり説明している。

最初に、地理情報を管理する国家機関として、国内外の古地図資料を研究及び分析し、韓国の地名及び形態変化に対する情報を国民に提供できる機会を得たという点。

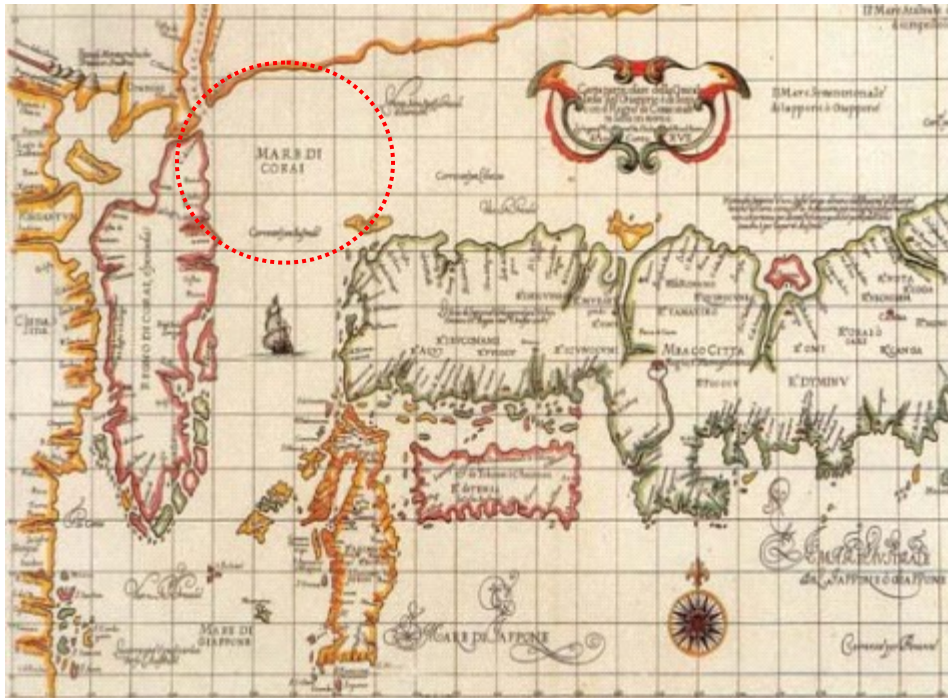
二番目に、東海・独島・大韓海峡等、韓国の領土に対する正当な権利を主張できる客観的な資料が用意され、これまで韓国が主張してきた領土問題に対する信頼度の向上が予想されるという点。

三番目に、今後も古地図資料を持続的に収集し、体系的管理及び専門的研究を実施できる力量を備えるようになったという点である。

添付資料：研究対象古地図資料

○西洋古地図に現れた東海表記

* 17世紀後半から韓国海と表記され始める



1661年、ドウドウリ (Dudley ; 英国) が製作した「日本地図」。
東海を「韓国海 (Mare Du Corai)」と表記。



1725年、英国のセネクス (Senex) の「アジア地図」。
東海を「The Eastern or Corea Sea」と表記。

* 18世紀（1735年～1790年）には韓国海表記が主流



ニコラス・ベレン(フランス)の1752年「日本地図」。
韓国と日本の間の海を「韓国海 (Mar de Corée)」と表記。



左：18世紀中葉のベレン(フランス)の「広東、遼東及び朝鮮全図」に現れた「韓国海」表記
右：18世紀中葉のトーマス・キチン(英国)の「広東、遼東及び朝鮮全図」に現れた「韓国海」表記

* 18世紀後半から日本海表記が登場



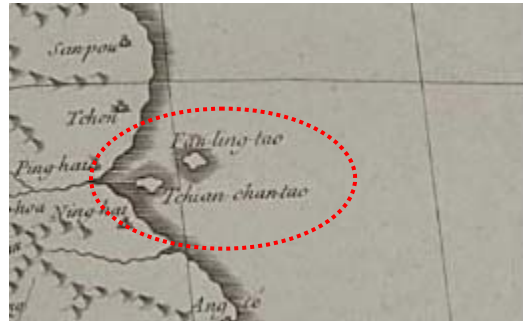
トゥランキロ・モヨ (Tranquilo mollo; スペイン) の「アジア地図」。
東中国海に韓国海 (Meer Du Corea) と表記。



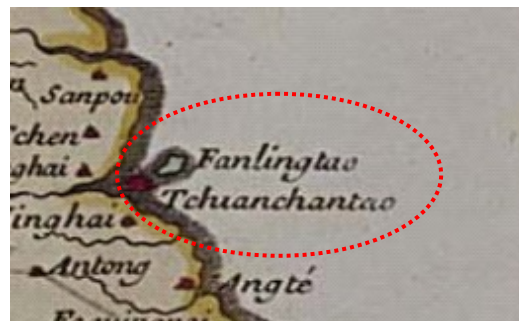
1832年のフランスのラピエ (Lapie) が製作した「アジア地図」。
今の「南中国海」を「中国海」、「東中国海」を「韓国海」、「東海」を「日本海」と表記。

○外国古地図に現れた鬱陵島と独島

- * ダンビルの「朝鮮全図」で、鬱陵島を千山島 (Tchian-chan-tao)、独島をパンリン島 (Fanling-tao) と表示し、東海沿岸にぴったり付けて表記。

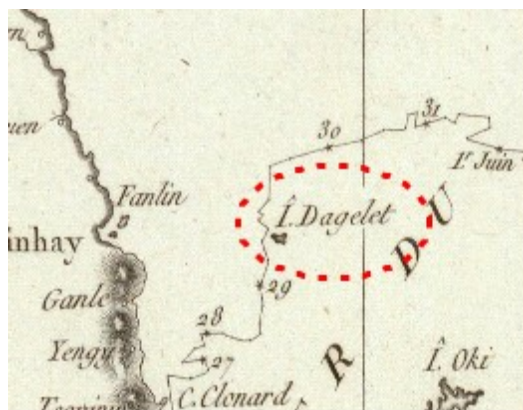


1735年、ダンビル(フランス)の「朝鮮全図」に現れた独島と鬱陵島。

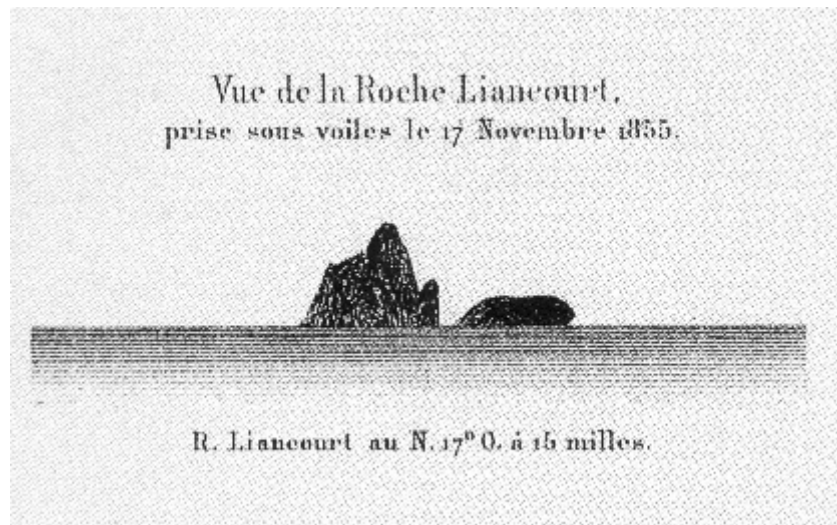


ベレン(フランス)が1740年代に製作した「朝鮮地図」

- * 1787年5月27日、フランスのラペルーズ探検隊は、鬱陵島をタジュレ (Dagelet) 島と命名。



- * 1849年1月27日、フランス人のドウ・スザ(De Souza)は、独島を発見して「Liancourt Rocks」と名称付与。



- * 1827年、ロシアのクルセンスタン(Krusenstern)は、「太平洋海図集」で「Takasima」と「Matusima」という日本式の名前を使い、以後、西洋地図に表記され始める。



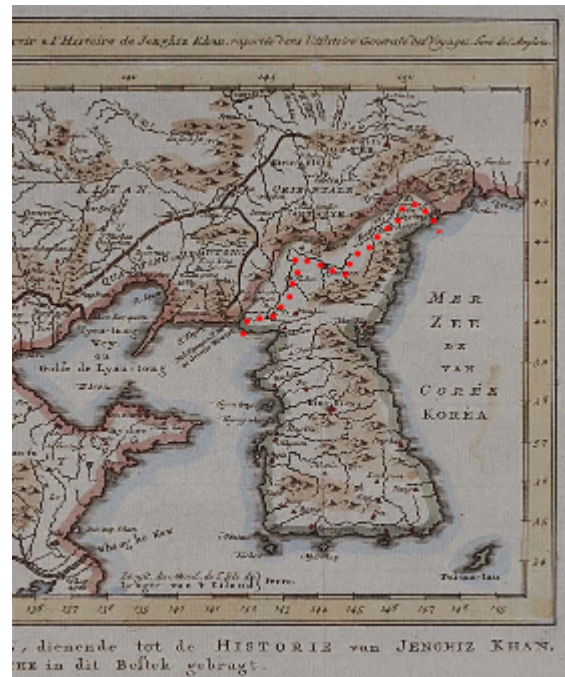
The Century Company の「Japan and Korea」(1902)

○西洋古地図に現れた間島境界の三種類の形態

* ホマン(ドイツ)の1749年の地図



* 1750年、ベレン(フランス)の「カタイ地図」



* 1771年に製作された「タタール、中国地図」(フランス)



○外国古地図に現れた大韓海峡



タベルニエ(フランス)の1679年「日本地図」。
大韓海峡の場所に韓国海と表記。



1797年、ラペルーズ(フランス)の地図。
大韓海峡と独立して表記。

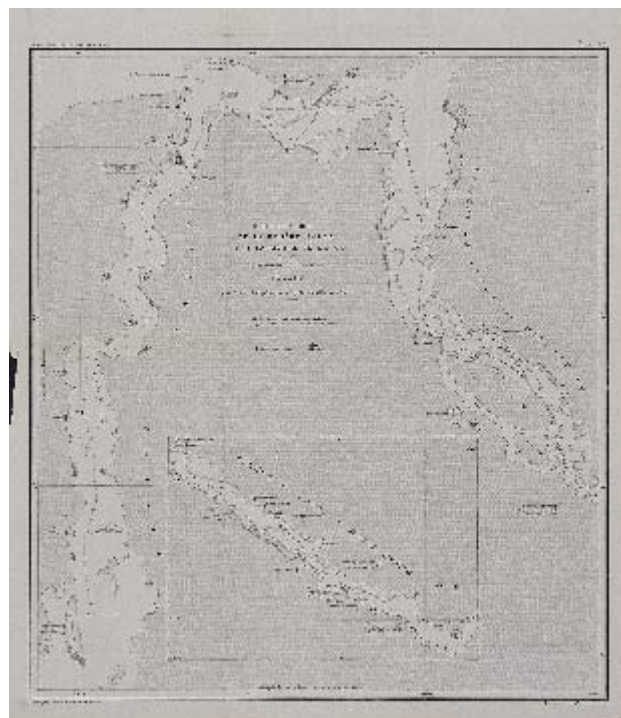


「最新日本地図」。
昭和13年(1938年)三省堂。
朝鮮海峡と対馬海峡を併記した地図。

○丙寅洋擾の直前のフランス製作地図



Port Hamilton : 1845年にサマラン(H. M. S. Samarang)号に乗って来た EDW. Belcher 船長が測量に基づいて作った1846年の巨文島の地図



Carte provisoire de la riviere salee et de la reviere de Seoul :
1866年9月、丙寅洋擾の1ヶ月前に漢江を探索した地図。